

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>マラウイ中部州ドーワ県において、小中学校を拠点として「包括的な村落開発」のモデルを立ち上げ、教師や学校に通う子ども達、そして学校周辺に居住するその父兄を中心に村落内で循環型農業の普及や、保健衛生の改善、農産加工技術の移転を進めることによって、貧困の削減、環境の保全と、貧困住民の健康の増進、収入の創出を図り、国連のミレニアム開発目標（MDGs）の達成に寄与する。</p>
(2) 事業内容	<p>中間報告対象期間：2011年8月18日～2011年12月31日</p> <p>①「井戸建設等による安全な水の供給と衛生指導</p> <p>今期計画12基のうち11基を建設し、完成した。残りの1基については、雨季に入ったため乾季（6月以降）に建設を延期し、建設地は検討中である。完成した5基の村に対して、井戸の使用・管理及び衛生指導に関する講習会を実施した。</p> <p>②エコサントイレ建設等による衛生改善と有機肥料の作成</p> <p>今期計画60基のうち40基が完成した。建設過程において工程や出来具合の確認を行っている。更にエコサントイレから採取される尿を各WPGへ使用する指導を行ったほか、エコサン肥料（希釈した尿および当会前事業地から購入した乾燥化させた便）を用いてメイズの比較栽培を行っている。</p> <p>なお、一部の農家においては依然エコサン肥料を使用することをためらっているが、今後比較栽培等を通して効果や安全なことを伝え、普及していく予定である。</p> <p>③蚊帳配布等による感染症対策</p> <p>本事業の対象エリアである3地区に加えて隣接するNtondo地区及びNdzizi2地区の計5地区43か村に対し、9月から10月にかけて、配布前調査及びマラリアや蚊帳の使用についての講習会を実施した。11月21日から12月16日にかけて蚊帳配布を実施し、848世帯（裨益者数3,984人）に対して自己資金にて1,946張を配布した。</p> <p>④学校菜園の設置と運営（乾季）</p> <p>フェーズ1に引き続き、チンパール中学校の学校菜園において、野菜や果樹の栽培を行っており、これらの栽培状況について、農業担当教員に逐次確認を行っている。</p> <p>学校菜園では、農業クラブの生徒49名が積極的な活動を行っており、菜園の面積に対して作付面積が小さいことから、より多くの種子や新たな作物の栽培を希望しており、今後（次の乾季）に向けての検討を行っている。</p> <p>⑤循環型環境保全農業等の技術移転</p> <p>10軒のモデル農家への種子や当会の前事業地から手配したエコサン肥料（灰と混ぜて乾燥化させた便）の配布の実施や、5軒の農家においてメイズの比較栽培を開始した。また、女性グループと現状の問題や今後の方向性について話し合う会合を実施した。</p> <p>Masuiti村のWPGにおいて、土地所有者と村人との間に争いが起き柵が壊された結果、ヤギによる被害を受け、WPGがほぼ壊滅したが、その土地所有者と和解し、改めてWPGを作る予定である。</p>

<p>(3) 達成された効果</p>	<p>活動① <u>井戸建設等による安全な水の供給と衛生指導</u> 目標 12 基中 11 基完成。これにより約 2,000 人が今までより衛生的な水にアクセスできるようになった。</p> <p>活動② <u>エコサントイレ建設等による衛生改善と有機肥料の作成</u> 目標 60 基中 40 基完成。これにより 40 世帯がトイレを持つことになり衛生面が改善されたほか、尿を有機肥料として使用することが可能となった。</p> <p>活動③ <u>蚊帳配布等による感染症対策</u> 1,947 張の蚊帳を配布。マラリア啓蒙活動を実施。これにより 848 世帯 (3,984 人) が蚊帳を所有し、マラリアに関する理解を深めた。</p> <p>活動④ <u>学校菜園の設置と運営 (乾季)</u> 学校菜園において、教員や農業クラブ (生徒 49 名) が中心となり積極的に活動を行っている結果、収入を得られるようになった。</p> <p>活動⑤ <u>循環型環境保全農業等の技術移転</u> モデル農家 10 軒、メイズ比較栽培 5 軒の活動を本格化した。また、女性グループ (2 グループ、35 名) のうち 1 グループは生産作物から収益 (10,660MWK、約 5,000 円) を上げているほか、今後の活動における方向性を検討した。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>循環型農業と衛生改善による包括的な村落開発モデルの構築に向けて、井戸、エコサントイレの建設を続けるとともに、これら及び蚊帳のモニタリングを行い、循環型農業の普及と衛生改善を図る。</p> <p>また、収益創出に向けた農産加工品技術の移転を行うと共に、女性の地位向上にむけた活動を行っていく。</p>